

学びのアップデート

令和4年3月17日
第9号
東京都教育庁総務部
教育政策課

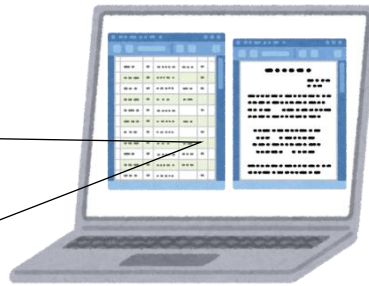
本号では、個別最適な学びの実現に向けた、端末に標準的に導入されているソフトやサービスを活用した事例を紹介します。端末にはワープロソフトや表計算ソフト、学習支援サービスなどが合わせて導入されており、これらのソフトやサービスを児童・生徒も教師もすぐに使うことができます。教師はそれを活用して教材を作成し、児童生徒の端末に配信するなどして、学習活動の中で活用できます。このソフトやサービスは、学習内容に合わせて教材を作成したり、児童生徒の学習状況を把握したりできるのが大きなメリットで、児童生徒の実態に合わせてきめ細やかな学習活動を展開して、個別最適な学びの実現に向けた学習活動の充実につながります。

本号で紹介する中学校の事例では、端末に標準的に導入されているソフトやサービスを活用して作成したデジタル教材を学習活動の中に取り入れ、生徒の学習状況を把握できるようにしています。学習活動を充実させるための工夫の一つとして、取り組んでみてください。

個別最適な学びの実現に向けた、ソフトやサービスの活用



ワープロソフトや表計算ソフト、
学習支援サービスなど

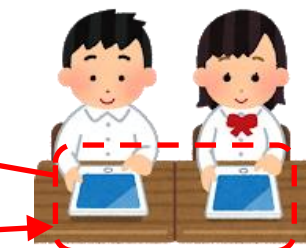


【教材の作成】

- ・教師の授業の進め方や児童生徒の学習状況を考慮した教材を作成することができる
- ・ソフトやサービスの機能を踏まえ、児童・生徒が使いやすい教材を作成することができる



【課題の配信・学習状況の把握】



- ・児童生徒は配信された課題に取り組み、端末上で正解か不正解かがすぐに分かる
- ・児童生徒に対して配信した課題の取組状況から、学習状況を把握することができる

児童・生徒に対してきめ細やかな指導が可能になり、個別最適な学びの実現に向けた学習活動の充実が可能になる。

新宿区立西早稲田中学校の事例

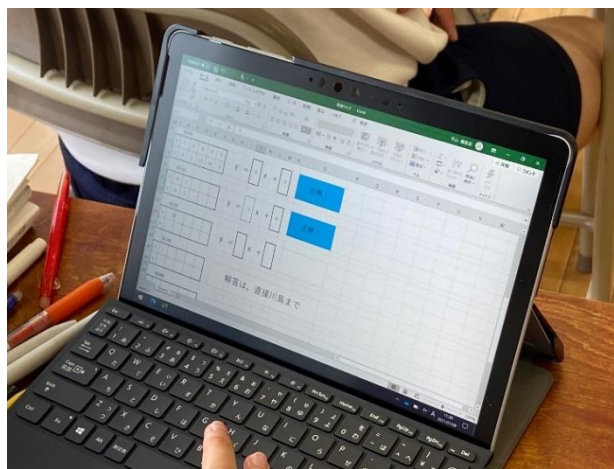
【数学の学習】

中学2年生数学「一次関数」において、表計算ソフトを活用した問題演習を行いました。ここで使用したのは、式の空欄に数値を解答する教材です。この教材は、数値を入力すると自分の解答が正解、不正解をすぐに表示できるように設定されています。生徒一人一人が各自の端末を使用して問題演習を行うので、自身が学習内容をどれだけ理解できているかを、容易に把握することができるようになっています。そのため、生徒が自身の弱点となる学習内容を把握して復習したり、発展的な学習内容に進んだりすることができます。



- ①表に示されている値から一次関数の式を求め、式中の空欄に正しい値を入力する表計算ソフトを用いた教材を作成
- ②①の教材を生徒各自の端末へ配信
- ③生徒はその教材に数値を入力し、その場で正誤の判定がなされる。

問題演習



【国語の学習】

国語の授業において、学習支援サービスのアンケート機能を使った小テストを行いました。このテストは四字熟語の読みや意味を問うもので、生徒各自の端末へ配信され、生徒はそれに取り組みます。課題の提出を受けた教師は生徒一人一人の理解度や、クラス全体での回答状況を瞬時に把握することができます。このテストで把握できた内容を踏まえて、クラスの中で補充的な学習が必要な生徒や、具体的にどのような指導を行っていくのがよいかなどを検討して、実際に指導することができます。



- ①四字熟語の読みや意味を問うテストを、学習支援サービスのアンケート機能を活用して作成
- ②テストを生徒各自の端末へ配信
- ③生徒が端末上で行った解答に対して、採点や集計が自動的に行われる

小テスト

